教科	科目	単位数	対象学年
国語	現代文Ｂ	３	５年

１．学習の到達目標等

到達目標	文章の論理的読解が出来るようになる
目標を達成するための留意点	授業を大切にすることを基本とし、必要な物を準備し、主体的に授業に参加する姿勢を付ける。授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、またグループ学習において、他者の意見を聴き、自分の考えを伝えることが出来る力を身につける。ノートは板書や教師の説明等を、丁寧な字で確実に書くようにし、復習時に要点が理解できるものを作る。 家庭学習において、授業時に出された課題等に丁寧に取り組み、復習をする習慣を身につける
使用教科書	『精選　現代文 B』（筑摩書房）
使用副教材	『実践記述用教科演習』（尚文出版）　　自主教材
評価基準	小テスト及び中間・期末テスト・提出物・授業態度などを総合的に判断して評価する。
学習内容	言語知識　・現代文の読解の根幹となる知識（常用漢字・抽象概念語句・用語）の運用の確認をする。 論説文・評論文 ・論理的文章の読解を通して、様々なテーマに対する教養的知識を理解す、自分の視野を広げる。 ・論理構成を検証し、文章の要旨、筆者の主張を読み解くことを学習する・ ・自分の考えと比較することで、思考力、批評力を学ぶ。 詩歌・文学的文章 ・文学的文章の読解を通して、時代背景・思想・心情理解につなげる。 ・作者や登場人物の生き方、考え方を多角的に読み取り、自らの生き方を見つめる材料とする ・短詩形文学の学習を通して、様々な修辞技法を学びその使用意図を理解するとともに、自分の表現に活用することを学ぶ。

２．指導計画

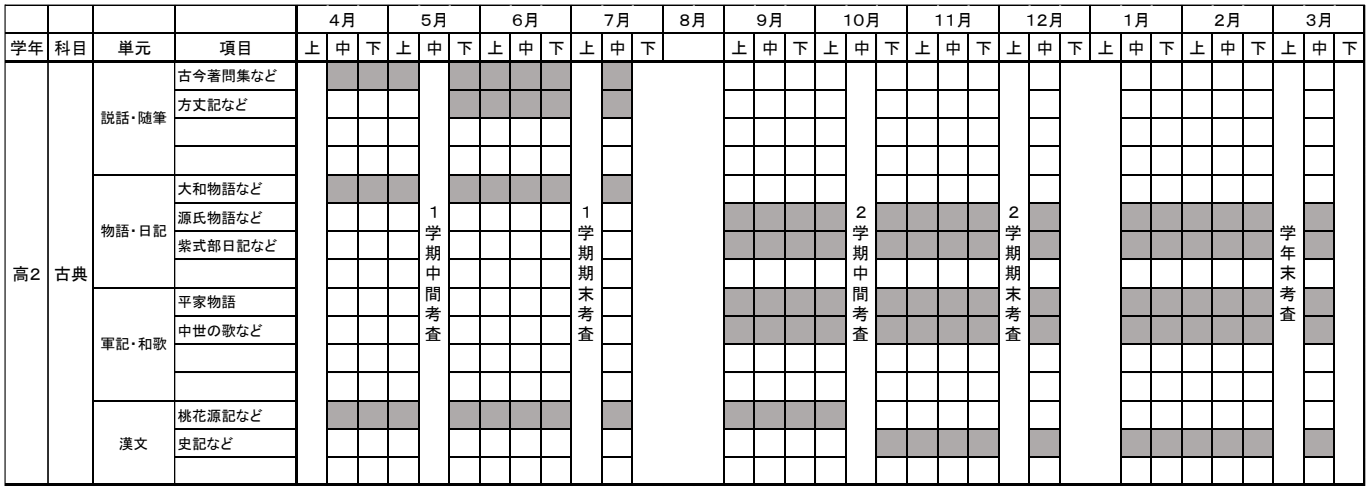
				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
高2	現代文	評論	「情報の彫刻」等		■	■	■	1学期中間考査			■	■	1学期期末考査	■							2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		小説	「山月記」等				■		■	■	■																									
		評論	「思考バイアス」等														■	■	■				■	■	■		■									
		随想	「路地の奥の家」等																■	■			■	■												
		小説・詩歌	「こころ」等																										■	■	■	■				
		評論	『「である」ことと「する」こと』等																												■	■	■		■	
		言語知識	漢字・語彙など		■	■	■			■	■	■		■			■	■	■	■			■	■	■		■		■	■	■	■	■	■		■	

教科	科目	単位数	対象学年
国語	古典	3	5年

1．学習の到達目標等

到達目標	古典の精神を理解し、既習の文法の総復習と並行し、作品の自力読解力を養う・さまざまな漢文を読み込み、考察力を高める。
目標を達成するための留意点	授業を大切にすることが基本という意識を持たせる。授業は説明を注意深く聞き、受け身ではなく主体的に取り組ませるよう工夫をする。家庭学習を習慣付けるためにも、授業の復習などの課題を適切に指示するよう心がける。
使用教科書	『古典Ｂ　古文編』　『古典Ｂ　漢文編』（筑摩書房）
使用副教材	『力をつける古文・漢文』（尚文出版） 『入試対策ﾍﾞｽﾄｾﾚｯｸｼｮﾝ古文単語３２５』（尚文出版） 『新明説漢文』（尚文出版）　等
評価基準	日常の小テスト　および　中間・期末考査　課題提出等で総合的に評価する。
学習内容	古典　説話や物語等、様々な文章に触れ、読解力を高める。 説話・・・『今昔物語』など 物語・・・『源氏物語』、『堤中納言物語』など 日記・・・『蜻蛉日記』など 軍記物・・・『平家物語』など ○本格的な古文の文章の読解を中心に学習する。『源氏物語』や『蜻蛉日記』など難解な文章を読解することに取り組む。 漢文　漢詩や思想、史話などの文章に触れ、読解力を高める。『史記』、『戦国策』など。 ○本格的な漢文の文章の読解を中心に学習する。『史記』や『戦国策』などの文章を読解することに取り組む。

2．指導計画



教科	科目	単位数	対象学年
地理歴史	世界史Ｂ	４	５年

１．学習の到達目標等

到達目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し，文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
目標を達成するための留意点	◆授業を中心に教科書・図説・プリント・世紀別地図の掛け軸を活用して，世界の歴史の流れを整理・理解させていく。◆人名や事件の名称を単に暗記するのではなく，歴史事象の背景や結果とその影響などを総合的に理解・考察できるようグループワークなどを用いていく。◆『総合マスター世界史Ｂ』や授業内の確認問題などを定期的に解き，主体的・客観的に理解度を確認できるようにしていく。
使用教科書	世界史Ｂ（山川出版社）
使用副教材	世界史Ｂ用語集（山川出版社），総合マスター世界史Ｂ（浜島書店），世界史詳覧（浜島書店）
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	◆古代オリエント文明のほか，エーゲ・ギリシア・ローマの各文明の特色やそれらが後のヨーロッパ文明の母体となったこと。 ◆インド以東のアジア・アメリカの古代文明。南アジア・東南アジア・中国といったユーラシア大陸やアメリカ大陸の文明の成立・繁栄・衰退。 ◆魏晋南北朝の分裂時代から元朝による南宋の征服にいたるまでの千年あまりの東アジアの歴史を，中国を中心に朝鮮や日本の周辺諸国家の形成を関連付け。 ◆７世紀のイスラーム教の成立から１５世紀までのイスラーム世界の拡大。 ◆西ローマ帝国が滅びた後，中世と呼ばれる千年におよぶヨーロッパの時代，フランク王国・封建社会・十字軍等。 ◆唐の滅亡以後，モンゴル帝国がユーラシアの大半を統合する１３～１４世紀までの内陸アジア・東アジア世界。 ◆１４～１８世紀頃までのアジア諸地域の動向，明・清・ティムール・サファヴィー・ムガルなど各国の興亡を中心。 ◆ルネサンス・宗教改革・主権国家体制の成立・世界各地への進出と大西洋世界の形成。 ◆各国の重商主義政策と国際関係を，また１７世紀のイギリス革命によって立憲王政が成立。 ◆産業革命・技術革新・交通革命でイギリスが繁栄，アメリカ独立革命・フランス革命の結果，市民社会が誕生したことを学習する。 ◆フランス革命の成果がナポレオンを通じて大陸に広まったことやその後の影響。

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月	
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中
5	世界史B	先史の世界	人類の進化農耕・牧畜					1学期中間考査					1学期期末考査								2学期中間考査
		序章先史の世界 オリエントと地中海世界	古代オリエント世界																		
			ギリシア世界																		
			ローマ世界																		
		アジア・アメリカの古代文明	インドの古代文明																		
			東南アジアの諸文明																		
			中国の古典文明																		
			南北アメリカ文明																		
		内陸アジア世界・東アジア世界の形成	草原の遊牧民とオアシスの定住民																		
			北方民族の活動と中国の分裂																		
			東アジア文化圏の形成																		
		イスラーム世界の形成と発展	イスラーム世界の形成と発展																		
			イスラーム世界の発展																		
			インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化																		
			イスラーム文明の発展																		
		ヨーロッパ世界の形成と発展	西ヨーロッパ世界の成立																		
			東ヨーロッパ世界の成立																		
			西ヨーロッパ中世世界の変容																		
			西ヨーロッパの中世文化																		

				10月	11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
		内陸アジア世界・東アジア世界の展開	トルコ化とイスラーム化の進展																
			東アジア諸地域の自立化																
			モンゴルの大帝国																
		アジア諸地域の繁栄	東アジア世界の動向																
			清代の中国と隣接諸地域																
			トルコ・イラン世界の展開																
			ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展																
		近世ヨーロッパ世界の形成	ヨーロッパ世界の拡大																
			ルネサンス																
			宗教改革																
			ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成																
		近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	産業革命																
			アメリカ独立革命																
			フランス革命とナポレオン																
		欧米における近代国民国家の発展	ウィーン体制の成立																
			ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生																
			南北アメリカの発展																
			19世紀欧米の文化																

教科	科目	単位数	対象学年
地歴	地理Ｂ	4	５年

１．学習の到達目標等

到達目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域の歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
目標を達成するための留意点	社会的事象の本質を見極めることのできる力をつけるために、多面的な知識を活用していくことを主眼において授業を展開する。そのためには社会（身の回り、社会で起こっていること）に興味を持ち、自分からグローバル社会に飛び込んでいく姿勢が必要となる。
使用教科書	新詳地理 B(帝国書院）、新詳高等地図初訂版(帝国書院)
使用副教材	新詳地理資料（帝国書院)、サクシード地理(啓隆社)、データブック(二宮書店)、
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	【自然環境】 地理情報と地図／地図の活用と地域調査／世界の地形／世界の気候／日本の自然の特徴と人々の生活／環境問題 【資源と産業】 世界の農林水産業／食糧問題／世界のエネルギー・鉱産資源／資源・エネルギー問題／世界の工業／第３次産業／世界を結ぶ交通・通信／現代世界の貿易と経済圏 【人口、村落・都市】 世界の人口／人口問題／村落と都市／都市・居住問題 【生活文化、民族・宗教】 世界の衣食住／民族と宗教／現代世界の国家／民族・領土問題

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
5	地理B	さまざまな地図と地理的技能	地理情報と地図		■			1学期中間考査					1学期期末考査								2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
			地図の活用と地域調査		■	■																														
		自然環境	地形				■		■																											
			気候							■	■																									
			日本の自然									■		■																						
			環境問題											■																						
		資源と産業	農林水産業														■	■																		
			食料問題															■																		
			エネルギー・鉱産資源																■	■																
			資源・エネルギー問題																	■																
			工業																			■	■													
			第3次産業																					■												
			交通・通信																					■												
			貿易																					■												
		人口 村落・都市	世界の人口																						■											
			人口問題																							■										
			村落と都市																									■								
			都市・居住問題																									■								
		生活文化、民族・宗教	衣食住																										■							
			民族と宗教																											■	■					
			国家																												■	■				
			民族・領土問題																													■			■	

教科	科目	単位数	対象学年
地歴	日本史Ｂ	4	５年

１．学習の到達目標等

到達目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ，我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
目標を達成するための留意点	各時代の特色を捉え、前後の時代を比較してその移り変わりを考察し、流れをおさえることが大切である。
使用教科書	詳説日本史　改訂版(山川出版社)
使用副教材	日本史Ｂ用語集、詳説日本史図録(山川出版社)、ステップアップ日本史(啓隆社)
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	【原始・古代】 日本文化のあけぼの 律令国家の形成 貴族政治と国風文化 【中世】 中世社会の成立 武家社会の成長 【近世】 幕藩体制の確立 幕藩体制の展開 幕藩体制の動揺 【近代・現代】 近代国家の成立

２．指導計画

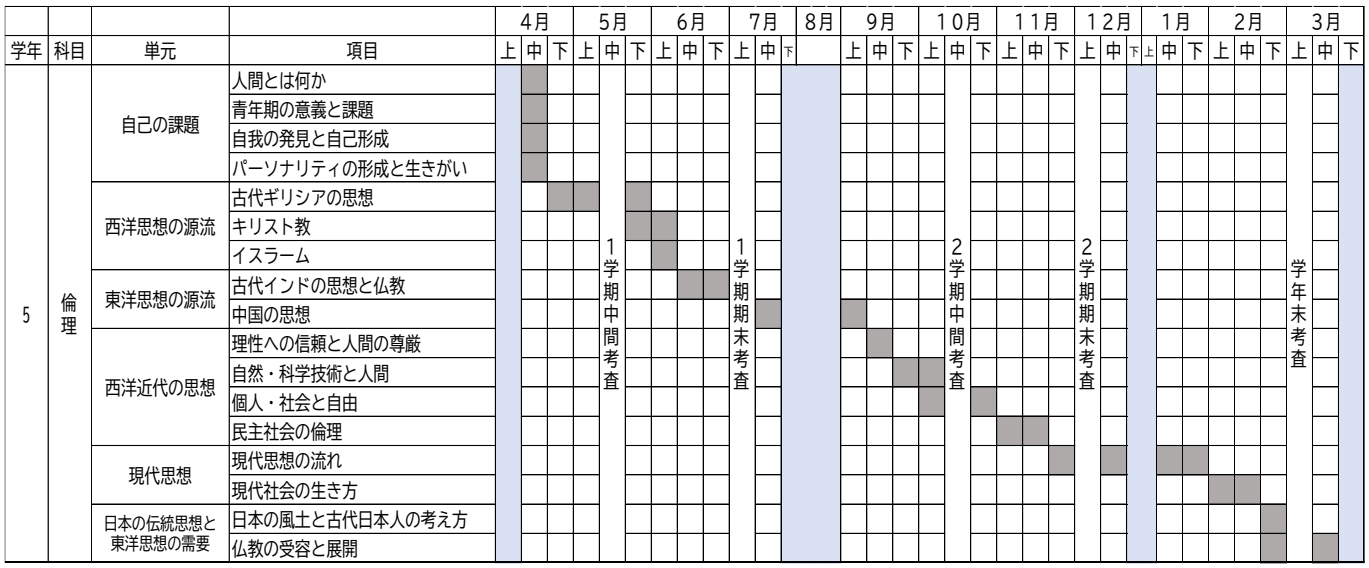
				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
5	日本史Ｂ	原始・古代	日本文化のあけぼの		■	■	■	1学期中間考査					1学期期末考査								2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
			律令国家の形成				■		■	■																										
			貴族政治と国風文化							■	■	■																								
		中世	中世社会の成立									■		■			■																			
			武家社会の成長														■	■	■	■																
		近世	幕藩体制の確立																	■			■	■												
			幕藩体制の展開																					■	■											
			幕藩体制の動揺																						■		■									
		近代・現代	近代国家の成立																										■	■	■	■	■		■	

教科	科目	単位数	対象学年
公民	倫理	2	5年

1．学習の到達目標等

到達目標	(1)青年期の課題と人間としての在り方生き方 自己の生きる課題とのかかわりにおいて，青年期の意義と課題を理解させるとともに，先哲の基本的な考え方を手掛かりとして，人間の存在や価値について思索を深めさせる。 (2)現代と倫理 現代に生きる人間の倫理的な課題について思索を深めさせ，自己の生き方の確立を促すとともに，よりよい国家・社会を形成し，国際社会に主体的に貢献しようとする人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。
目標を達成するための留意点	○学習内容について，具体的な事例を用いて考えさせることで，生徒が自分の生き方と関連付けて理解できるようにするとともに，そのことにより生徒の意見を引き出すようにする。 ○学習課題の解決のための資料等を複数提示することにより，生徒が適切な資料等を自ら選択し，さまざまな視点から考えを表現できるようにする。 ○ICT 教材を活用することにより，アクティブラーニングを促す。
使用教科書	改訂版　倫理（数研出版）
使用副教材	最新図説　倫理（浜島書店）　倫理演習ノート(数研出版)　用語集倫理（山川出版）
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	【自己の課題】人間とは何か／青年期の意義と課題／自我の発見と自己形成 ／パーソナリティの形成と生きがい 【西洋思想の源流】古代ギリシャの思想／キリスト教／イスラーム 【東洋思想の源流】古代インドの思想と仏教／古代中国の思想 【西洋近代の思想】理性への信頼と人間の尊厳／自然・科学技術と人間／個人・社会と自由 ／民主社会の倫理 【現代の思想】現代思想の流れ／現代社会と生き方 【日本の伝統思想と東洋思想の受容】日本の風土と古代日本人の考え方／仏教の受容と展開

2．指導計画



教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学Ⅱ＋数学Ⅲ	4（1＋3）	5年理系

1．学習の到達目標等

到達目標	・数学ＩＡⅡＢの既習内容を定着させる。 ・数学Ⅲは，5年次では計算を優先する。
目標達成のための留意点	・数学Ⅲは， 既習内容の延長上にあることを意識させ，既習内容を復習しつつ学習すること。 ・計算を優先し，計算力を強化する．計算力なしに，論理は身につかない。
教科書	数学Ⅲ（数研出版）
副教材	攻略！共通テスト Pick Up 128 数学 I+A，II+B（東京書籍） 初めから解ける数学Ⅲ問題集（マセマ出版） 元気が出る数学Ⅲ（マセマ出版）
評価方法	定期考査，BC，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	[数学ＩＡⅡB] プリント・副教材を用いた演習 [数学Ⅲ] 第3章 関数 分数関数・無理関数・合成関数・逆関数など種々の関数とそのグラフについて学ぶ。 第4章 極限 導関数を計算するための極限を学ぶ.。 第5，6章 微分法，微分法の応用 導関数の計算及び，増減，凹凸の考察の仕方を学び，グラフを描く。 第7，8章 積分法の応用 微分の逆演算としての積分計算を練習し，面積・体積・弧長を求めれるようにする。

2．授業進度表

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項　目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学Ⅱ＋Ⅲ	数ＩＡⅡB演習	■	■	■		1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
	極限		■	■	■																																
	関数						■																														
	微分法							■	■	■	■						■	■	■	■	■	■	■														
	積分法																							■	■	■	■			■	■	■	■	■	■		

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学Ｂ	２	５年理系

1．学習の到達目標等

到達目標	・複素数平面では，主に演算の習得・習熟を目指す。 ・いろいろな曲線では，定義を覚え，複雑な計算ができるようにする。 ・数学ＩＡⅡＢの既習内容を定着させる。
目標達成のための留意点	・複素数平面は，ベクトル，図形と方程式など，数学Ⅱ・B の 延長線上にあることを意識し学習させる。 ・2次曲線は，数学Ⅱの図形と方程式（軌跡）の延長上にあることを意識し学習させる。 ・校外模擬模試で偏差値 60 以上が取れる習熟度を目指す。
教科書	数学Ⅲ（数研出版）
副教材	攻略！共通テスト Pick Up 128 数学 I+A, II+B（東京書籍） 初めから解ける数学Ⅲ問題集（マセマ出版） 元気が出る数学Ⅲ（マセマ出版）
評価方法	定期考査，BC，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	[数学ＩＡⅡＢ] プリント・副教材を用いた演習 ［数学Ⅲ］ 第1章　複素数平面 複素数平面と複素数の極形式について学び，複素数の実数倍・和・差・積・商の図形的な意味を理解し，活用する。 第2章　式と曲線 平面上の曲線がいろいろな式で表されることを理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。特に，2次曲線（放物線・楕円・双曲線）の基本的な性質について学ぶ。

2．授業進度表

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項　目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学B	数ＩＡⅡB演習					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
	複素数平面																																			
	いろいろな曲線																																			

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学Ⅱ	3	5年文系

1．学習の到達目標等

到達目標	・数学ⅡＢの既習内容を定着させる。 ・自らの力で基本的な問題を解くことができる。
目標達成のための留意点	・校外模擬模試で偏差値 60 以上が取れる習熟度を目指す。 ・応用問題も基本的な問題の組み合わせでできていることを意識させる。
教　科　書	数学Ⅱ（数研出版） 数学B（数研出版）
副　教　材	攻略！共通テスト Pick Up 128 数学 I+A, II+B（東京書籍） 初めから解ける数学Ⅱ・B 問題集（マセマ出版） 元気が出る数学Ⅱ（マセマ出版） 元気が出る数学 B（マセマ出版）
評 価 方 法	定期考査，BC，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	[数学ⅡＢ 復習] プリント・副教材を用いて，基本事項の再確認を行う。 [数学ⅡＢ 演習] 問題演習を通して，基本事項の再構築及び定着具合の確認を行う。

2．授業進度表

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項　目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学Ⅱ	数学ⅡB復習					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
	数学ⅡB演習																																				

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学 B	2	5年文系

1. 学習の到達目標等

到達目標	・数学ＩＡの既習内容を定着させる。 ・自らの力で基本的な問題を解くことができる。
目標達成のための留意点	・校外模擬模試で偏差値 60 以上が取れる習熟度を目指す。 ・応用問題も基本的な問題の組み合わせでできていることを意識させる。
教科書	数学Ⅰ（数研出版） 数学 A（数研出版）
副教材	攻略！共通テスト Pick Up 128 数学 I+A, II+B（東京書籍） 初めから解ける数学Ⅰ・A 問題集（マセマ出版） 元気が出る数学Ⅰ・A（マセマ出版）
評価方法	定期考査，BC，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	［数学ＩＡ復習］ プリント・副教材を用いて，基本事項の再確認を行う。 ［数学ＩＡ演習］ 問題演習を通して，基本事項の再構築及び定着具合の確認を行う。

2. 授業進度表

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項　目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学B	数学ＩA復習					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
	数学ＩA演習																																				

教科	科目	単位数	対象学年
理科	物理(理系)	4	５年

１．学習の到達目標等

到達目標	物理への関心意欲を高め，基本事項をよく理解し，物理的なものの見方や考え方を身に付ける。
目標を達成するための留意点	受動的な学習姿勢ではなく，能動的な学習姿勢を意識させる。
使用教科書	「改訂版　物理」（数研出版）
使用副教材	「リードα物理」（数研出版） 「良問の風」（河合出版）
評価基準	・定期試験　・課題提出　・授業への意欲により総合的に判断する。
学習内容	力と運動 剛体にはたらく力のつり合い ・力のつり合いと合成・分解 ・力のモーメント さまざまな運動①～平面上の運動と放物線～ ・平面上の運動 ・放物運動 さまざまな運動②～円運動と万有引力～ ・円運動 ・慣性力 ・万有引力 さまざまな運動③～単振動～ ・単振動 運動量 ・運動量の力積 ・運動量保存の法則 ・反発係数 熱 気体の分子の運動と圧力 ・気体の性質 ・気体分子の熱運動 気体の状態変化 ・気体の状態変化 ・熱機関と熱力学第２法則 波 光 ・光の伝わり方 ・光の回析と干渉 ・レンズと鏡 電気と磁気 電界と電位 ・静電気 ・電界（電場） ・電位

２．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
力と運動	剛体にはたらく力のつり合い			1学期中間考査		1学期期末考査	■				2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	さまざまな運動①～平面上の運動と放物運動～	■	■															
	さまざまな運動②～円運動と万有引力～				■			■										
	さまざまな運動③～単振動～				■													
	運動量		■															
熱	気体分子の運動と圧力								■	■								
	気体の状態変化											■						
波	波の性質																	
	音																	
	光													■	■			
電気と磁気	電界と電位														■	■		■

教科	科目	単位数	対象学年
理科	物理(文系)	2	5年

1．学習の到達目標等

到達目標	物理への関心意欲を高め，基本事項をよく理解し，物理的なものの見方や考え方を身に付ける。	
目標を達成するための留意点	受動的な学習姿勢ではなく，能動的な学習姿勢を意識させる。	
使用教科書	「改訂版 新編 物理基礎」（数研出版）	
使用副教材	「四訂版 リードα 物理基礎」（数研出版） 「大学入学共通テスト 物理基礎 単元別問題集」（駿台文庫）	
評価基準	・定期試験　・課題提出　・授業への意欲により総合的に判断する。	
学習内容	電気 ・電気の性質 ・電流と電気抵抗 ・電気とエネルギー ・電流と磁場 物理学と社会 ・エネルギーの移り変わり ・エネルギー資源と発電 ・摩擦をコントロールする ・エネルギーを有効利用する ・見えないものを見る	問題演習 ・運動とエネルギー ・熱 ・波 ・電気 ・エネルギーとその利用

2．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
運動とエネルギー	運動の表し方			1学期中間考査		1学期期末考査	■	■	■		2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	運動の法則						■	■	■									
	仕事と力学的エネルギー									■								
熱	熱とエネルギー											■						
波	波の性質											■						
	音											■						
電気	物質と電気抵抗													■	■			
	磁場と交流															■		
物理学と社会	エネルギーの利用																	■
電気と磁気	電界と電位	■																
	電流		■															
	電流と磁界				■													
	電磁誘導と電磁波				■													
原子	電子と光				■													
	原子と原子核				■													
	物理学が築く未来				■													

教科	科目	単位数	対象学年
理科	化学(理系)	3	５年

１．学習の到達目標等

到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め，目的意識を持って観察，実験などを行い，化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，化学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な見方や考え方を養う。
目標を達成するための留意点	受動的な学習姿勢ではなく，能動的な学習姿勢を意識させる。
使用教科書	「改訂　化学」（東京書籍）
使用副教材	「ニューグローバル　化学」（東京書籍）
評価基準	下記の１～５の項目を，評価の観点別(知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度)に評価する。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断する。 １．授業への取り組み 授業に対する姿勢，学習態度，化学への関心等で判断する。評価の観点のうち，特に主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 ２．ノートの記載内容 授業内容を適切にまとめているか，科学的な思考ができているかなどを評価する。 ３．観察・実験等 観察・実験等を行い，レポートを書く。観察・実験に対する姿勢，予想や考察，器具の操作，報告書などから評価する。評価の観点のうち，思考・判断・表現に関する配分が大きい。 ４．教科書・問題集の問題 各問題への取り組み，取り組んだ内容から評価する。 ５．中間・定期考査 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち，知識・技能，思考・判断・表現に関する配分がもっとも大きい。
学習内容	化学反応とエネルギー 　化学反応と熱 物質の状態と平衡 　物質の状態 　気体の性質 　溶液の性質 　結晶構造 化学反応の速さと平衡 　化学反応の速さ 　化学平衡 　水溶液中の化学平衡－電離平衡 無機物質 　周期表と元素 　非金属元素の単体と化合物 　遷移元素の単体と化合物

	無機物質と人間生活

２．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
物質の状態と平衡	物質の状態	■	■	1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	溶液の性質	■	■															
化学反応とエネルギー	化学反応と熱・光				■		■											
	電池と電気分解				■		■		■									
化学反応の速さと平衡	化学反応の速さ								■	■								
	化学平衡									■		■						
	水溶液中の化学平衡											■		■				
無機物質	周期表と元素														■	■		■
	非金属元素の単体と化合物														■	■		■
	遷移元素の単体と化合物														■	■		■
	無機物質と人間生活														■	■		■

教科	科目	単位数	対象学年
理科	化学(文系)	2	５年

１．学習の到達目標等

到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め，目的意識を持って観察，実験などを行い，化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，化学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な見方や考え方を養う。
目標を達成するための留意点	受動的な学習姿勢ではなく，能動的な学習姿勢を意識させる。
使用教科書	「改訂　化学基礎」（東京書籍）
使用副教材	「ニューグローバル　化学基礎」（東京書籍） 「大学入学共通テスト 化学基礎 単元別問題集」（駿台文庫）
評価基準	下記の１～５の項目を，評価の観点別(知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度)に評価する。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断する。 １．授業への取り組み 　授業に対する姿勢，学習態度，化学への関心等で判断する。評価の観点のうち，特に主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 ２．ノートの記載内容 　授業内容を適切にまとめているか，科学的な思考ができているかなどを評価する。 ３．観察・実験等 　観察・実験等を行い，レポートを書く。観察・実験に対する姿勢，予想や考察，器具の操作，報告書などから評価する。評価の観点のうち，思考・判断・表現に関する配分が大きい。 ４．教科書・問題集の問題 　各問題への取り組み，取り組んだ内容から評価する。 ５．中間・定期考査 　学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち，知識・技能，思考・判断・表現に関する配分がもっとも大きい。
学習内容	科学と人間生活 　科学とは何か 　物質の成分と構成元素 物質の構成 　原子の構造と元素の周期表 　化学結合 物質の変化 　物質量と化学変化 　酸と塩基 　酸化還元反応

２．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
化学と人間生活	化学とは何か			1		1					2		2					
	物質の成分と構成元素			学		学					学		学				学	
物質の構成	原子の構造と元素の周期表			期		期					期		期				年	
	化学結合			中		期					中		期				末	
物質の変化	物質量と化学反応式			間		末					間		末				考	
	酸と塩基			考		考					考		考				査	
	酸化還元反応			査		査					査		査					

教科	科目	単位数	対象学年
理科	生物(理系)	4	５年

１．学習の到達目標等

到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに，生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。
目標を達成するための留意点	受動的な学習姿勢ではなく，能動的な学習姿勢を意識させる。
使用教科書	「改訂 生物」（東京書籍）
使用副教材	「リードα　生物」（数研出版）
評価基準	行動観察，発言，発表，自己評価，レポート，ワークシート・小テスト・定期テストなど
学習内容	グループ型学習で授業を進め，教師の授業に加え生徒同士の教えあいにより生物の基礎知識の定着を行い，グループ全員が理解することを共通目標にした教えあいを通じてクラス全体で教えあう意識を高め，問題読解力の向上と理解の深化をはかる。

２．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
生物の多様性と生態系	植生と遷移	■		1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	生態系と生物の多様性		■															
生命現象と物質	細胞と分子				■													
	代謝						■		■									
	遺伝情報の発現								■	■		■						
生殖と発生	生殖と発生											■		■	■			
生物の環境応答	動物の反応と行動															■		■
	植物の環境応答																	
生態と環境	生物群集と生態系																	
生物の進化と系統	生命の起源と進化																	
	生物の系統																	

教科	科目	単位数	対象学年
理科	生物(文系)	2	5年

1．学習の到達目標等

到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに，生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。
目標を達成するための留意点	受動的な学習姿勢ではなく，能動的な学習姿勢を意識させる。
使用教科書	「改訂　生物基礎」（東京書籍）
使用副教材	「リードα　生物基礎」（数研出版） 「大学入試　共通テスト　生物基礎　単元別問題集」（駿台文庫）
評価基準	行動観察，発言，発表，自己評価，レポート，ワークシート・小テスト・定期テストなど
学習内容	グループ型学習で授業を進め，教師の授業に加え生徒同士の教えあいにより生物の基礎知識の定着を行い，グループ全員が理解することを共通目標にした教えあいを通じてクラス全体で教えあう意識を高め，問題読解力の向上と理解の深化をはかる。

2．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
生物の特徴	生物の多様性と共通性			1学期中間考査		1学期期末考査	■		■		2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	生物とエネルギー								■									
遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNA									■								
	遺伝情報とタンパク質									■								
ヒトの体の調節	体内環境と情報伝達											■						
	免疫のはたらき											■		■				
生物の多様性と生態系	植生と遷移	■													■	■		
	生態系と生物の多様性		■		■											■		■

教科	科目	単位数	対象学年
英語	コミュニケーション英語Ⅱ・Ⅲ	4	5年

1．学習の到達目標等

到達目標	多様な題材に触れ ・テキストを正確に理解し、それが前提としていることや背景にあることを推論する。 ・その内容について深く理解する。 ・題材をもとに、「聞く、読む、話す、書く」の４技能を有機的に関連付けつつ、総合的なコミュニケーション能力を養成する。
目標を達成するための留意点	・英語は継続して取り組むことで成果へとつながるので，課題も含め，毎日英語に触れるよう指導計画を作成する。 ・受験にも対応できる力を養成する。
使用教科書	Revised Element English CommunicationⅡ・Ⅲ（啓林館）
使用副教材	システム英単語（駿台文庫）　READING CORE for 共通テスト(啓隆社) Hyper Listening Intermediate(桐原)　共通テスト 10 分リスニングプレノート（数研出版） 基礎英語長文問題精講（旺文社）※医進・選抜コースのみ
評価基準	1. コミュニケーションへの関心、意欲、態度 2. 表現能力(Speaking, Writing) 3. 理解能力(Listening, Reading) 4. 言語や異文化についての知識、理解 上記の４つの観点と定期考査、課題提出、確認テスト、授業に参加する姿勢などを基にして総合的に評価する。
学習内容	・多様な話題の文章を読み解き、内容に興味を持ち、考える。 ・スピーチ、インタビュー、プレゼンテーション、レポート、レクチャー、対話文、説明文、物語といった多様な種類の文章の特徴に注目し、それらの表現方法を学ぶ。 ・上記の題材を読んだり聞いたりして理解し、考えた内容を書いたり話したりして発信することによって、４技能を統合する。 ・大学受験に耐えうる長文読解力(速読、精読)、共通テストのリスニングに対応できる聴解力・情報処理能力を養う。

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	内容	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
5年	コミュ英語Ⅱ	Lesson 6	Caddy for Life					1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		Lesson 7	iPS Cells																																				
		Lesson 8	Selective Breeding																																				
		Lesson 9	The Vancouver Asahi																																				
		Lesson 10	Euglena																																				
	コミュ英語Ⅲ	Lesson 1	Lies, Damned Lies, and Statistics																																				
		Lesson 2	Language Extinction																																				
		Lesson 3	Language Extinction																																				
		Lesson 4	The Truth about Grit																																				
		Lesson 5	A Class from Stanford University																																				
		Lesson 6	The Mpemba Effect																																				

教科	科目	単位数	対象学年
英語	英語表現Ⅱ	2	5年

1．学習の到達目標等

到達目標	・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ・事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。 ・受験において文法・作文問題への対策も視野に入れる。
目標を達成するための留意点	・各授業における言語活動の中で、自分のことを英語で語る場面を大切にする。 ・定期的な英作文とその添削を行い、書くことに慣れ、またその中で正しい英文法を意識させられるようにする。
使用教科書	Vision Quest English ExpressionⅡAce(啓林館)
使用副教材	Vision Quest WORKBOOK Ace(啓林館) 総合英語 FACTBOOK(桐原書店)
評価基準	１．コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ２．表現能力(Speaking, Writing) ３．理解能力(Listening, Reading) ４．言語や文化についての知識・理解 上記４つの観点と定期考査、課題提出、確認テスト、授業に参加する姿勢などを基にして総合的に評価する。
学習内容	・身近にある様々なトピックについて英語で表現する。また、その表現内容を何度も繰り返し使用することで体得する。 ・発信に重点を置き、与えられたトピックでフリートークを行ったり、準備をしてスピーチを行ったりスピーキング、パラグラフ展開等を学んだ上で様々な種類の文章を書くライティングの練習や英語によるプレゼンテーション、ディスカッションなどを行う。 ・文法問題、作文問題に対する受験演習。 ・ネイティブ教員と日本人教員の TT により、よりオーセンティックな学習素材に触れ、その素材を基に英語での意見論述などを行う。

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
5年	英語表現Ⅱ	L. 1 お花見	主語の決定／見えない主語の発見／主語のit		■	■		1学期中間考査					1学期期末考査									2学期中間考査						2学期期末考査									学年末考査		
		L. 2 漫画の楽しみ	主語になる名詞句／形式主語／無生物主語				■																																
		L. 3 京都へ観光に	自動詞と他動詞／間違えやすい自動詞と他動詞／群動詞						■																														
		L. 4 私の家族です	SVO／SVOO							■																													
		L. 5 保育園での授業体験	SVC／SVOC								■	■																											
		L. 6 サプライズパーティー	使役動詞／知覚動詞											■					■																				
		L. 7 映画のお誘い	直接話法と間接話法／間接話法で伝達																	■																			
		L. 8 航空管制官になる	「～する」／「～している」																		■																		
		L. 9 趣味はピアノ	「～した」／「～していた」																			■																	
		L. 10 「タイタニック」を見て	能動態と受動態／日本語との違い																					■															
		L. 11 世界遺産の魅力	「もし(今)～ならば」／「もし(あの時)～だったなら」																						■														
		L. 12 ボランティア活動	義務・必要を表す助動詞／推量を表す助動詞																							■													
		L. 13 制服に賛成？反対？	数量を表す語句／名詞を前から修飾する語句																								■												
		L. 14 ローマの魅力	名詞を後ろから修飾する①／②																										■										
		L. 15 思い出の写真	関係代名詞／関係副詞																												■								
		L. 16 科学技術の利用	副詞・副詞句／不定詞や分詞を使った副詞句																													■							
		L. 17 携帯電話は便利だけど	副詞節①／②																															■					
		L. 18 犬派？ 猫派？	原級／比較級																																■				
		L. 19 思い出のプレゼント	最上級／最上級を意味する表現																																	■			
		L. 20 インターネットの問題点	no＋名詞, no-で始まる代名詞／部分否定／準否定																																			■	

教科	科目	単位数	対象学年
保健体育	体育	2	5年

1．学習の到達目標等

到達目標	各種の運動の合理的な実践をとおして、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動することのできる資質や能力を身につける。
目標を達成するための留意点	・各運動の基本的技能を身につける。 ・年間を通じての基礎トレーニングにより、体力の向上を図る。 ・規律規範を守る。
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
使用副教材	現代高等保健体育　ノート（大修館）、最新スポーツルール（大修館）
評価基準	【知識及び技能】 運動の合理的な実践を通して、各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身につけている。また、運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。 【思考力，判断力，表現力等】 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。 【学びに向かう力，人間性等】 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら運動しようとする。 以上の観点を踏まえ、授業の取り組み（授業態度や学習活動への参加状況）などから総合的に判断します。
学習内容	下記の　2．指導計画参照。 【体育理論】豊かなスポーツライフの設計の仕方

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
5	体育	集団行動			■	■	■	1学期中間考査					1学期期末考査						■				2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		体つくり運動			■	■	■												■																				
		新体力テスト			■	■	■																																
		陸上																										■			■	■	■						
		ダンス																																					
		武道																																					
		球技	ゴール型、ネット型、ベースボール型							■	■	■	■	■						■	■	■											■	■	■			■	
		器械運動																							■	■	■												
		体育理論	豊かなスポーツライフの設計																					■	■						■	■							